

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立諏訪小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0024

東京都多摩市諏訪5-13

E-mail sumita-katsushi@city.tama.tokyo.jp

Website http://schit.net/tama/essuwa/

幼児児童生徒数 男子 139名 女子 157名 合計 289名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動の内容

(1) 活動の概要

国語科、社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動、道徳、音楽、図画工作、体育、そして、食育、環境教育の各教科・領域において、「身に付けさせたい力・態度」として次の3点を掲げ、取り組んだ。

- ・ものごとを思慮深く考え、判断する力。
- ・コミュニケーションを行う力。
- ・他者と協力する態度や他者とのつながりを尊重する態度。

【第1学年】⇒国語（コミュニケーションを行う力）「ものの名まえ」



「ものの名まえ」の学習の言語活動として、おみせやさんごっこをした。上位語、下位語の学習を活用し、生活体験と結び付けることにつながった。体験を通して、「これはいくらですか。」「おつりは〇円です。」などのやりとりを楽しむことで、コミュニケーションを行う力を養うこともできた。

【第2学年】⇒生活科「えがおのひみつ たんけんたい」



自分たちが住む諏訪の町を探検したり、地域の人と交流したりして学習を進めた。地域の様々な人たちや施設などは、自分たちの生活とつながりがあり、深くかかわっていることに気付くことができた。また、学んだことを「見つけたよカード」にまとめたり、学習発表会で舞台発表をしたりすることができた。地域に対する理解や愛着が深まり、地域の施設や商店への関心をより高めることができた。

【第3学年】⇒総合的な学習、国語「牛乳パックを活用しよう」



身の周りでは、何が、どのようにリサイクルされているのか調べ、説明文としてまとめたものを互いに報告し合った。

外部講師を招いて行った「紙すき体験」では、自分たちの手で牛乳パックをはがきへと生まれ変わらせることで、喜びや達成感を味わうとともに講師による講話からリサイクルに対する意識を高めることができた。

【第4学年】⇒社会「くらしと水」「水道キャラバン」



水源の確保のために行う森林の保全やダム・浄水場などの事業が、計画的に他地域の人々の協力のもとで行われていることを学ぶことができた。また、沈殿・ろ過の実験を行うことで水の大切さを考えることができた。

「水を大切にしたい」「人々の工夫をいろいろな人に広めたい」など、学んだことを生かし、自分たちにできることを考えて実践することができた。

【第5学年】⇒総合的な学習（ものごとを思慮深く考え、判断する力）
「環境問題を考えようー富士登山を通してー」



行事で富士登山を経験し、雄大な自然に触れた。世界文化遺産に登録された富士山の自然や景観を守るためどのような取組を行っているのか調べ、自らが環境を守るために何ができるのか考えた。その後、学習発表会で、自分たちが学んだことを全校の児童に伝えるためには、どのような構成、表現がよいか考えた。表現力の向上にもつながった。

【第6学年】⇒総合的な学習の時間「八ヶ岳移動教室マニュアルを作ろう」



八ヶ岳の農業、酪農、林業、自然について事前に調べたことと移動教室での林業体験を通して学んだことを5年生に伝えるという設定で学習活動に取り組んだ。グループで編集会議を開き、伝えたいことや構成を話し合った。国語のパンフレットづくりの学習を生かし、学校図書館の本で調べたことや体験して分かったことを文章にまとめ、イラストや写真を添えて紙面を構成した。分かりやすく伝えるための工夫が試みられた。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

『子どもが創る多摩市の未来』（多摩市教育委員会編）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ・教育課程には、児童の主体性を育む諸活動として位置づけている。
- ・各教科での横断的な指導を計画的に行うために、「ESD カレンダー」を定め、各教科のねらいとESDの視点との両面を踏まえた指導に心がけている。
- ・各教科に課題解決的な授業展開を積極的に取り入れるよう共通理解を図り、校内研修会（授業力向上のための研究）の分析の視点の中でも、児童の主体的な学習への取り組みについて検証している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・校内教員の教育活動の拠点として、全教員を担当する学年等によって低・中・高学年分科会に分けた校内研修をはじめとして、諸教育活動の連絡・相談・実践を徹底することで起動力を発揮している。
- ・各分科会内に ESD 担当者を配置し、ESD カレンダーの進捗状況の確認や課題の洗い出しにあたり改善策の協議を行っている。検討の結果は、学校全体で共有し、確認されている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・児童へのアンケートの実施。この集計結果から、児童が主体的かつ楽しみながら取り組む学習を具現化するための一層の授業改善が課題として確認された。
- ・秋期の保護者アンケート。児童が楽しく主体的に学習に取り組んでいるかについての設問で肯定的な回答が多く寄せられている。
- ・内部評価。各学期毎に設問を定め、評価結果と改善策を協議している。今年度の主な課題は、「教師主導の授業から脱却するための具体的な改善策」「学年進行で積み上げていく力についての共通理解」である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ・学校だよりやホームページで取り組みの紹介を行うとともに、全学年が ESD としての取り組みを授業公開時に披露している。
- ・学習の仕上げ段階の「深める。発信する。」において、各学年が工夫して、保護者・地域へ発信する取り組みを導入するようにしている。
- ・『すわっこ市場』など、地域の方々が楽しみにしてくださっている行事もあり、今後も発信方法や内容を工夫して、地域の方々に誇りに感じていただける活動にしていく。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ・地域の自治会や、青少協などと連携した行事を行っている。
- ・UR より『すわっこ市場』の活動場所の提供を得ている。
- ・学区の商店街のイベントと連携する取り組みを検討している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

『オリンピック・パラリンピック教育』の一環である『友達プロジェクト』を進めていくうえで、海外の小学生(小学校)と web 会議を行うなど、双方向の交流を実施していきたいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

本校は、ユネスコスクールの指定を受けて以降、問題解決型の学習の意義について理解を深めるとともに指導方法の工夫・改善についての研究を重点的に行うようになった。その結果、徐々にではあるが、授業改善が図られている。また、学級を越えた学年単位や全校的な教育活動を積極的に取り入れ、E S Dの取り組みへの理解の深まりと教師の自信の高まりも見られるようになってきた。さらに、学級経営にE S Dの視点を取り入れることで、トータルでの人間形成の観点を日常の具体的な教育活動に落とし込んでいくようになった。教師の意識が変わることで、児童の成長にも徐々に効果が表れていると感じている。今後一層の指導力の向上を図る。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

- ・学習指導(特に、生活科や総合的な学習の時間)の工夫・改善の視点に『SDGs』の理念を積極的に取り入れる。
- ・来年度、本校の児童の参加が予定されている「多摩市子ども未来会議」での発表等を視野に入れて、学習単元を計画・実施する。
- ・本校のこれまでの取り組みを生かすとともに、『新学習指導要領』の趣旨に則った改訂を行う。その際に、E S Dカレンダーの改訂も行う。
- ・児童の関わりの密度を高め、児童の意識と活動のギャップがなくなるように準備、計画にあたる。課題設定の段階から、既定の内容にこだわらず、児童の思いを中心に進めていくよう改善していく。